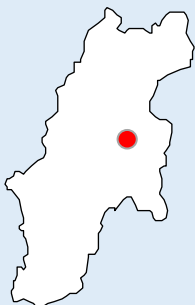


6 長興社信州人蔘センター協同組合（長野県）

産地の概要



品 目

オタネニンジン

栽培面積

計 6 ha

栽培戸数

12戸 （令和 6 年10月時点）

取組体制

長興社信州人蔘センター協同組合（以下、事業協同組合）
（加工・出荷、2 次製品加工、実需者との調整）
信州人蔘栽培研究会（試験栽培の実施、栽培技術指導）
長野県野菜花き試験場（生産技術の検討・実証）
独立行政法人医薬基盤研究所（以下、基盤研）
（情報提供）上田地域振興局（就農相談、補助事業等）

特 徴

加工・販売を事業協同組合が担うことで生産者は栽培に注力

取組の背景

人蔘は漢方の代表的な生薬として長野県では約180年前から栽培されてきた。

加工・販売は信州人蔘農協、その後 J A 部会として活動してきた。令和 5 年に事業協同組合を設立し、品質の向上及び販売窓口の一本化による付加価値の向上を図っている。また、令和 4 年に信州人蔘栽培研究会を設立し、育苗に係る試験栽培や、新規栽培者確保のための栽培研修会等を行っている。



▲栽培状況

品目選定理由

- ・長年培われた技術やノウハウを継承している。
- ・実需者ニーズが高く、ここ数年、価格が比較的安定している。

課 題

- ・生産者の減少、高齢化
- ・独特の栽培管理技術を要し、管理作業に多くの労力が必要
- ・収穫までに 4 ～ 6 年の期間を要する
- ・連作回避のため、新たなほ場の確保が必要

主な取組内容

①種苗

- ・採種・育苗の分業化を検討中、2年生苗の供給等一部で取組開始

②栽培管理

- ・施設化による育苗方法の試験栽培、肥料濃度、培土を検討（令和4年～）
- ・基盤研で実施中の海外を含め解明できていない病害の研究に、現地の情報を提供（令和 5 年～）
- ・栽培技術講習会の開催（令和 4 年～、年 2 回）
- ・県外他産地（福島県、島根県等）との情報交換・交流

③加工・調製

- ・事業協同組合で集荷、乾燥調製、製品化

④集出荷

- ・製品化後、実需者へ出荷



▲栽培技術講習会



▲製品サンプル

成 果

【取組による定量的な成果】

薬用作物取扱量 R3（J A）：5 t → R5（事業協同組合）：6 t

今後の展開

- ・新規生産者の確保や既存生産者の単収・秀品率向上等により生産量の維持を図る